国立大学法人
大阪教育大学

研究代表者：今枝　史雄（大阪教育大学 特別支援教育部門）
研究協力者：金森　裕治（元大阪教育大学）
　　福井　喜章（大阪府立八尾支援学校）

学校図書館における読書バリアフリー推進モデルの構築に関する研究
ー音声図書の閲覧支援を通してー

［問題の所在と目的］

〇令和元年に施行された読書バリアフリー法は、読みに困難のある人々に対して、アクセシブルな電子書籍等が提供されることを基本理念としている。 読書バリアフリー法で規定されるアクセシブルな電子書籍等にはマルチメディアDAISY図書が含まれている（下図）。
〇今後、読書バリアフリー法の理念に則り、読みに困難のある児童生徒に対して、地域の図書館や児童生徒に対して最も身近な学校図書館がマルチメディアDAISY図書等を含む音声図書をさらに提供し、支援することが求められる。
〇本研究では、読みに困難のある児童に対して、学校図書館においてマルチメディアDAISY図書等を含む音声図書を提供し、学校図書館における読書バリアフリー推進モデルを構築することを目的とする。

［研究方法］

１．対象

A市の小学校５校の学校図書館であった。

２．実施内容

【実施日数】小学校５校の学校図書館に計14日間訪問し(１校あたり２日～３日)、児童らに対して音声図書の提供を行った。
【支援者】　音声図書の専門家である金森裕治（元大阪教育大学）、福井喜章（大阪府立八尾支援学校）の２名であった。
【提供図書】提供した音声図書は、令和３～５年度文部科学省事業「読書バリアフリーに向けた図書館サービス研修」（研究代表者：今枝史雄）で製作したマルチメディアDAISY図書20冊であった（下記ポスター内に提示）。この20冊はA市小中学校の学校司書、中学校生徒らと大阪教育大学が共同で製作した図書であった。
【提供方法】小学校ごとに学校司書と連携の上、訪問日の「図書」の時間及び休み時間に提供した。大学からWindowsタブレット等を持参し、音声図書をインストールの上、児童らが閲覧した。今回、閲覧に使用したアプリは「ChattyBooks」であった。
【備考】　児童の閲覧時に、学校司書や担任等から「読みに困難のある児童」が含まれていることを確認した。

３．手続き

〇「図書」の時間の音声図書提供後に児童らにアンケートを実施した。
〇アンケート内容は「１.マルチメディアデイジー図書を読んでみてどうでしたか？(５件法：とても楽しかった～全然楽しくなかった)」「２.マルチメディアデイジー図書は紙の本とくらべてどうでしたか？(「マルチメディアデイジー図書の方が読みやすい」「紙の本の方が読みやすい」「どちらでもない」という選択肢)」「３.もっとマルチメディアデイジー図書を読みたいと思いましたか？(５件法：とても思う～全然思わない)」と「感想」であった。
〇５件法の２項目は「とても楽しかった・思う＝５点」～「全然楽しくなかった・思わない＝１点」とし、平均点と標準偏差を算出した。項目２はそれぞれの選択肢の割合を算出した。感想は主なものを列挙した。

［結果・考察］

１．閲覧の様子

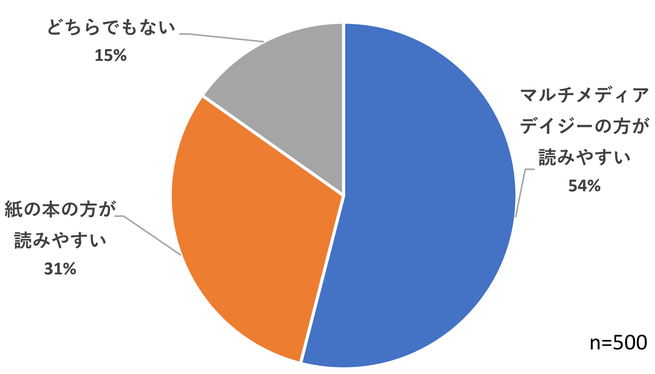
〇小学校５校14日間で１年生～６年生までの児童延べ1033名が閲覧した。
〇児童らは閲覧前にまず、大阪教育大学が作成した「楽しく読むために」というマルチメディアDAISY及び読み困難の啓発動画を視聴し、マルチメディアDAISY図書の有用性と読み困難の状態を把握した。
〇スクリーンを使って、全体で図書を閲覧後、持参したWindowsタブレットを数名の児童が囲み、閲覧していた。
〇読むスピードや文字の大きさ、背景色などを変更して、読み方を調整していた

学校図書館に掲示したポスター

マルチメディアDAISY図書　再生場面
（著作権の関係でごんぎつね）

２．アンケート結果

アンケートを記入できた２年生以上の児童501名を対象とし、記入漏れは分析対象外とした。
「１.マルチメディアデイジー図書を読んでみてどうでしたか？」の平均点を算出したところ、4.53(±0.77)であった。
「３.もっとマルチメディアデイジー図書を読みたいと思いましたか？」の平均点を算出したところ、4.18(±1.01)であった。
「２.マルチメディアデイジー図書は紙の本とくらべてどうでしたか？」のそれぞれの選択肢の割合を算出した（下円グラフ）



マルチメディアDAISY図書と紙の本とくらべてどうでしたか？
回答結果

感想

「音声が出ることで読むのが難しい人にとって便利だと思った」などの肯定的な感想が多かった。ここでは、今後の課題の把握のため、項目１及び項目３でネガティブな回答を行っている児童の代表的な感想を列挙する（原文ママ）
「色や大きさなどはかえれて面白かった。もうちょっと本のしゅるいがあればいいと思った。」
「パソコンでやるのはもじも絵もじっくり見たい。自分で読むほうがいい。」
「特に不自由じゃない人は使わなくていいと思った。でも字の読みにくい人はこっちの方がいいと思った。文を読む早さと絵の表示時間の調整を分けた方がいい。」

〇学校図書館における音声図書の提供を通して、多くの児童にとって、音声図書の啓発、読み方の違いがあることの啓発につながったと言える。しかし、マルチメディアDAISY図書の機能の今後の課題も明らかとなった。
〇今回の結果を踏まえ、今後、学校図書館において、読書バリアフリーに向けた音声図書提供システムを構築していきたい。